赤岳フォト山行記

日程：2018 年 12 月 15 日（土）～16 日(日) 二日間を通してほぼ晴れ

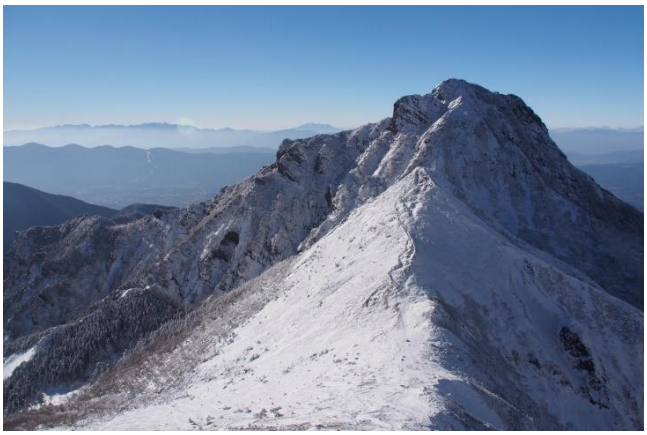
コースタイム：15 日 美濃戸口 7:32－行者小屋 11:45/12:35－赤岳山頂 15:00－地蔵の頭 15:50－
－行者小屋 16：45
16 日 行者小屋 7:30－美濃戸口 9:50

雪山シーズンを迎える度にいつか登りたいと思っていた冬の赤岳。天井には「八ヶ岳ブルー」の空が広がり、水平方向の視界には盆地を挟んで富士と南アルプス、地平の先には槍、穂高連峰に乗鞍、御嶽山がはっきりとした輪郭を映し、降雪期の赤岳でこれだけのコンディションに恵まれた幸運に感謝しなければいけないだろう。

2 年ほど前から渡辺　　さんに山行の機会をお願いしていて、私にとっては漸く実現した計画。生憎と今年の雪の少なさにやきもきとしていたが、数日前から降雪も続いて、雪の量ももまずますだ。行者小屋までの登りでいかにも体調不良できつそうな宮田さんにテントの留守をお任せすることになり、4 名での登頂となったことは残念だったが、漸く実現した冬の赤岳登山は素晴らしいものだった。

文三郎尾根の登り、振り返ると蓼科方面に広がる樹林帯の景色が美しい。樹林帯の右側には横岳、硫黄岳が聳え、左側には阿弥陀岳が迫る。

尾根を登りきり稜線に出る頃にやや風が強くなってきた。稜線の西の先には、堂々とした阿弥陀岳が聳えている。



ここから眺める赤岳は、しばらく続く稜線の先にごつごつとした岩稜帯が立ちふさがる。山頂直下はしばらく急な岩場が続き、山頂へそうは安安と登らせないとばかり、登山者に緊張を強いる。

山頂は３千米近い高さなので風はそれなりにあるが、普段の風に比べればこの日は微風程度のレベルなのかも知れない。兎に角、雲ひとつない空と地球が球体であることが実感出来る 360 度の視界は、苦労して高みに達することが出来た者だがけが味わえる喜びだ。

頂上からの下り、頂上山荘を過ぎた辺りから天望荘の先に横岳、硫黄岳へと続く稜線が視界の先に広がる。いつかは、雪のこの稜線を歩いてみたいとの思いに駆られる。

地蔵の頭から始まる地蔵尾根の急な下りのはじまりは、一気に行者小屋辺りまで下っているかの様な迫力がある。

この日は例年に比べて雪の量が少なく、階段も雪に埋もれておらず、鎖にも捕まることもでき、それほどの恐怖感もなく下ることができたが、雪が多く階段も鎖も雪に埋もれていたら、きっと相当の緊張感なしには下れないだろう。

行者小屋までの距離を半分ほど下った頃には 16 時も周り、遠く視線の先には少し赤く染まり始めた槍・穂高連峰の山並みが見え、振り返るとさっき登ってきた赤岳が美しくピンク色に染まっている。右側に聳えている横岳、硫黄岳も赤色に映えて美しい。

行者小屋のテント場にたどり着いたのは 17 時前、すでに薄暗くなっていた。いつもの山行に比べればこの時間帯の到着は少し遅いかもしれないが、さほどの疲れも感じなかったのは充実した一日の証だろう。